

3月末に調査した2004年4月の「消費意欲指数」の結果がまとまりました。
2004年4月の消費意欲は、先月から0.6ポイント上昇し、
50.7でした。

前年同月比で0.1ポイントDOWN。4月としてはワースト記録。

「消費意欲指数」は、月別の消費の先行指標として、1993年より注目されているデータです。

3月末時点で、博報堂生活総合研究所の調査パネルである一般生活者420名に対し「消費意欲(モノを買いたい、サービスを利用したいという欲求)が最高に高まった状態を100点とすると、あなたの4月の消費意欲は何点ぐらいでしょうか?」と質問した結果が、「4月の消費意欲指数」です。

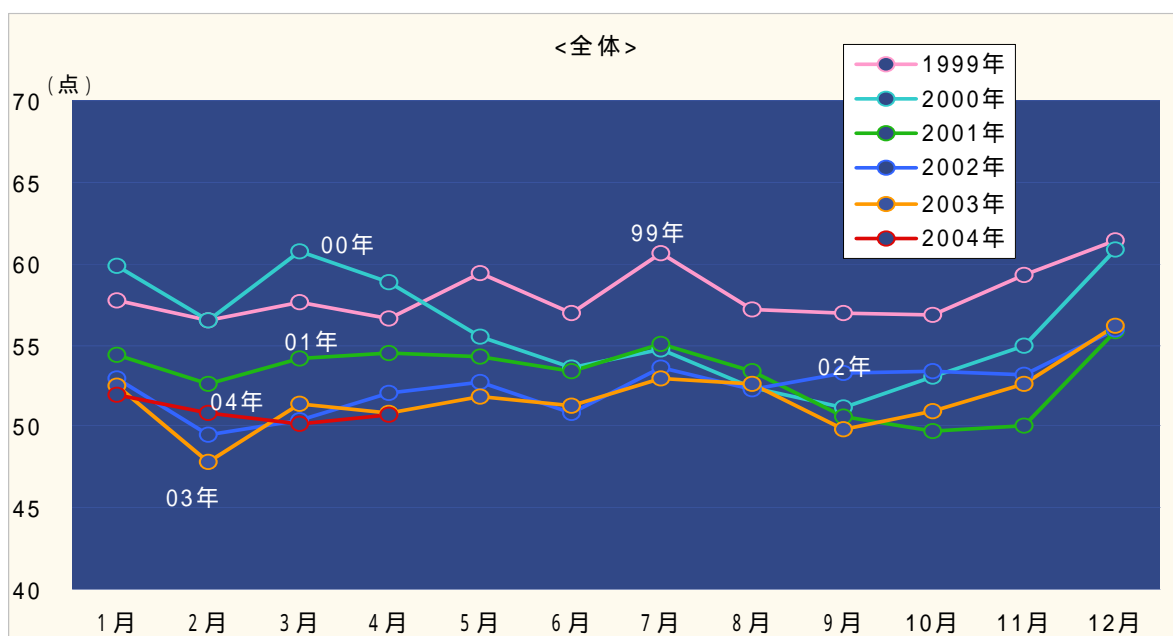
この消費意欲指数は、月別の消費を占う先行指標として、1993年4月の調査開始以来、幅広く活用して頂いています。

2004年4月、消費意欲指数は、先月から0.6ポイント上昇し、50.7点でした。

今月の消費意欲指数は、50.7(先月50.1から0.6ポイントUP)となりました。

先月からは上昇傾向にあるものの、依然、低空飛行状態が続いており、3月に続いて4月も過去ワースト記録となってしまいました。

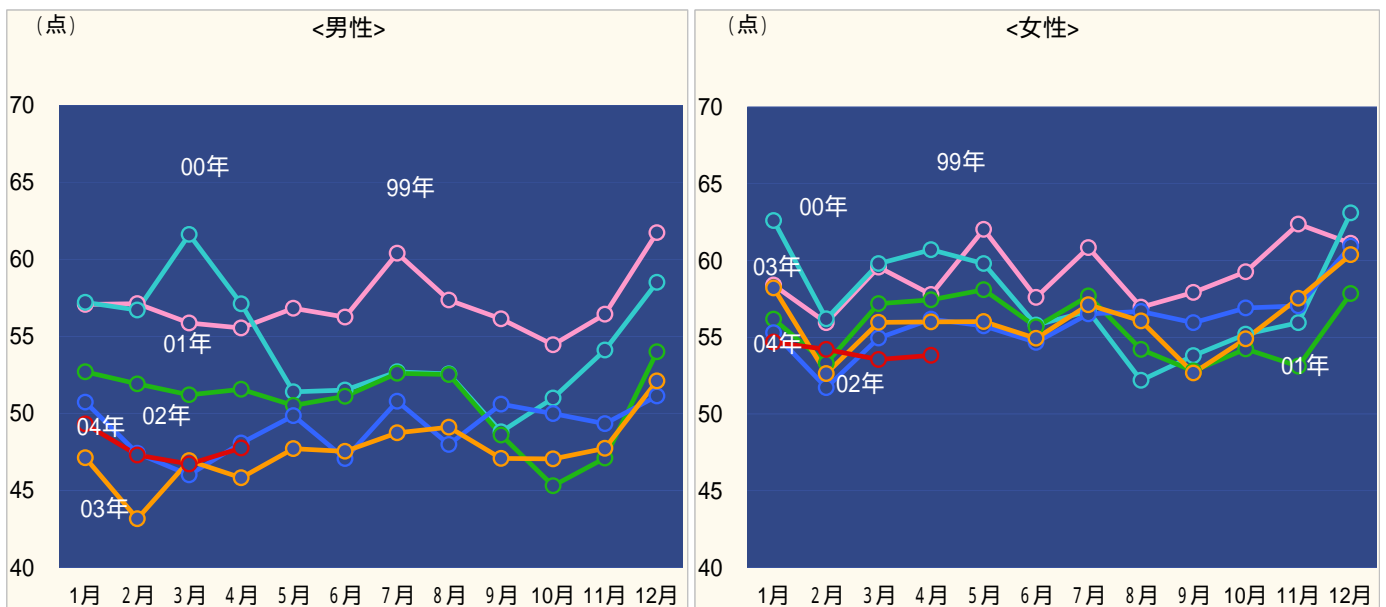
同時に調査している生活力点について昨年4月と比較してみると、特に「余暇・レジャー」への力点がマイナス6.5ポイント(03年4月:57.4 04年4月:50.9)と、大きく減少しているのが目立ちます。イラク戦争の影響による国内テロへの不安感が、余暇・レジャー意識にネガティブな効果を与えているのかもしれませんが。



男性の消費意欲に比して、女性は不調。

男女別では、女性の消費意欲の低さが際立っています。男性が3月(46.7)から4月(47.7)にかけて1.0ポイントUPしているのに比べ、女性は3月(53.6)から4月(53.8)にかけて0.2ポイントUPにとどまっています。さらに前年同月比でみると、男性は1.9ポイントUP(03年4月:45.8 04年4月:47.7)の一方で、女性は2.2ポイントDOWN(03年4月:56.0 04年4月:53.8)と、男女が対称的な結果となっています。

この原因としては、男性は年度末にかけての株価上昇で消費意欲が喚起された一方、女性は寒い日が続いたことで春物衣料の需要が伸び悩んだこと等が挙げられそうです。



博報堂生活総合研究所のHP (www.athill.com)では、「消費意欲指数」も含め、生活者に関する調査データにご自由にアクセスすることが可能となっております。是非一度ご覧ください。

【調査概要:HILL ネット調査】

調査地域:首都圏 / 調査対象者: 19~73才の男女個人420人 / 調査方法:郵送法

本件に関する詳細のお問い合わせは
博報堂生活総合研究所(03-3233-6450)までお願いいたします。

